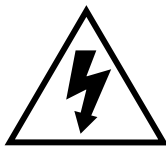




XD-V35 Digital Wireless

取扱説明書

【重要】安全にお使いいただくために



注意

**内部を開けないでください。
感電の恐れがあります。**



警告：火災や感電を防ぐため、ねじ等を外さないでください。このなかに一般使用が可能な部品はありません。製品に問題がある場合はメーカーまでお問い合わせください。

警告：火や感電を防ぐため、製品を雨や湿気にさらさないでください。

保証

本製品は米国連邦通信委員会 (FCC) により定められた FCC ルールの分類 15 に準拠しています。本製品は以下の二つの条件のもとで使用してください：(1) 本製品を有害な妨害行為に使用しないこと (2) 意図されない動作を起こすものであっても干渉信号はすべて受信すること。

警告：本製品の変更や修正は、Line 6 が書面にて明確に許可している場合を除き使用権利が無効となる場合があります。

無線周波数について：本製品を、他のアンテナやトランスミッターと同一場所に設置および同時に使用することは避けてください。

注意：本製品は米国連邦通信委員会 (FCC) により定められた FCC ルールの「クラス B デジタル機器」に準拠するようテストおよび製造されています。これらのルールは住宅への設置において有害な妨害・混信から合理的に保護されるよう定められています。本製品は電磁波を発生、使用、放射するため、取扱い説明書に従って使用されない場合には無線通信の障害の原因となることがあります。また、特定の設置方法によって障害が起きないことを保証するものではありません。本製品がラジオやテレビの受信に障害を発生させる場合には、以下の方法をお試しください。なお本製品が原因かどうかを調べるには、本製品のスイッチをオン/オフしてご確認ください。

- 受信アンテナの向きを変える、もしくは設置場所を変える
- 本製品と受信アンテナの設置場所を離す
- 本製品と受信アンテナを別回路のコンセントに接続する
- 販売店、もしくはラジオやテレビの専門技術者に相談する

このクラス B デジタル機器はカナダの ICES-003 および NMB-003 に準拠しています。このカテゴリー II 無線通信機器はカナダの業界標準 RSS-310 に準拠しています。

FCC ルールに準拠していることを示すシールが THH06 バッテリーコンパートメントに付けられています。シールを確認するにはねじを時計回りにまわして THH06 の底を外してください。

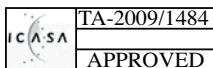
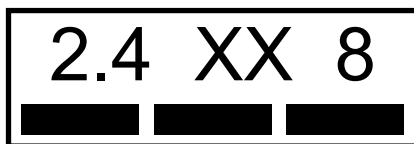


お読みください【重要】安全にお使いいただくために
本取扱説明書は安全な場所に保管しておいてください



XD-V35 Digital Wireless Systemをお使いいただくにあたり、本書をよくお読みください。

1. XD-V35のマニュアル(本取扱説明書)に記載されている警告・注意事項に従ってください。
2. 本書に記載されている以外の使い方はしないでください。本製品が以下のような原因で故障した場合にはサポートサービス・修理が必要です。
 - ・水などの液体がかかった、物が製品上に落下した
 - ・製品が雨や湿気にさらされた
 - ・異常な動作をする、パフォーマンスが著しく変化した
 - ・製品を床に落とした、内部が破損した
3. 暖房器具、ラジエーター、その他の熱を発する機器など熱源のそばに置かないでください。
4. 製品内に物や液体が入らないようにしてください。水のそばでの使用や設置は避けてください。
5. コードは踏まないでください。コードの上に物を置かないでください。引っかかりやたるみの原因となります。プラグおよび製品に接続されている部分のコードには特に注意してください。
6. 湿った布以外で製品を拭かないでください。
7. 弊社指定の付属品やアクセサリ以外のもは使用しないでください。
8. 長時間にわたり大音量で音を聞き続けると回復不可能な難聴や聴力低下などの原因となる場合があります。常に「安全な音量」を心がけるようにしてください。



20545/SDPPI/2011
3794

20543/SDPPI/2011
3794



XD-V35 デジタル・ワイヤレス・マイクシステムをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品はハイクオリティなワイヤレス・システムでありながら、プラグ&プレイできる非常に使いやすいフォーマットとなっています。完全にデジタル化された通信システムを採用しているため、以前のアナログ・ワイヤレス製品とは異なる機能や特徴を備えています。従来のワイヤレス製品と同じように使用できます。いくつかの簡単なコンセプトを理解するだけで、優れたオーディオ品質や安全かつ途切れることのないシグナルが実現されるほか、干渉やその他の障害なく複数のワイヤレス・チャンネルを同時に使用することが可能になります。

- ・ 2.4GHz 帯域でのデジタル通信 – 世界中でライセンス・フリーで使用可能
- ・ UHF 帯域における強力なテレビ放送機器からの干渉を回避
- ・ デジタル技術によりコンバーターを使用せずケーブル同様のオーディオ特性を実現 – 24ビットのデジタル・コンバーター/ 118dB ダイナミック・レンジ/ 帯域幅 10Hz – 20kHz
- ・ システム・レイテンシー < 2.9ms
- ・ 登録商標の 2 フリクエシー伝送により信頼性のあるドロップアウトのないパフォーマンスの提供
- ・ 既存の WiFi 機器との共存
- ・ 簡単に素早く設定：ゲイン、スケルチ、レベル調整不要
- ・ 6 チャンネルを同時使用可
- ・ 通信距離 83m
- ・ トランスミッター持続時間 > アルカリ単三電池 2 本で 8 時間
- ・ バッテリー・レベルおよび RF LED メーター
- ・ 内蔵アンテナ付きのテーブルトップ・レシーバー
- ・ XLR および 1/4 インチ TRS アウトプット・コネクタ
- ・ 以前の XD-V30 システムとの互換性

最高のパフォーマンスを得るために

- ・ トランスミッターとレシーバーの内蔵アンテナの間に障害物がないようにしてください。通常、レシーバー・アンテナは頭の高さより高い場所におきます。レシーバーをラックの下段、および壁やその他の障害物の裏に設置するのは避けてください。
- ・ 長い距離でトランスミッターを使用する場合、レシーバーはなるべく近くに設置し、XLR マイク（または 1/4）ケーブルでオーディオ・システムに接続してください。
- ・ コンピューター、ワイヤレス・アクセス・ポイント、イヤーマニター・トランスミッター、電子レンジなどのような RF を発生する機器の付近にレシーバーを設置するのは避けてください。
- ・ トランスミッターのアンテナをブロックしないようにしてください。ハンドヘルド・トランスミッターの下部を包み込むように持たないようにしてください。ボディバック・トランスミッターをポケットに入れるのは避けてください。

同梱されているコンポーネント

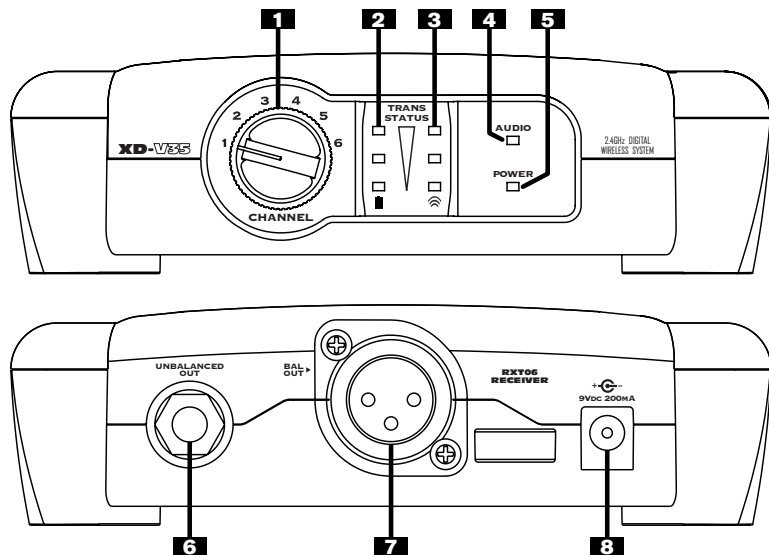
XD-V35 レシーバー：レシーバー、9V/0.5A 外部ユニバーサル・パワー・サプライ、取り扱い説明書

THH06 ハンドヘルド・トランスミッター：トランスミッター、単三アルカリ電池 × 2、マイクスタンド・クリップ

または

TBP06 ボディバック・トランスミッター：トランスミッター、単三アルカリ電池 × 2、クリップ付きの単一指向性ラベリアマイク

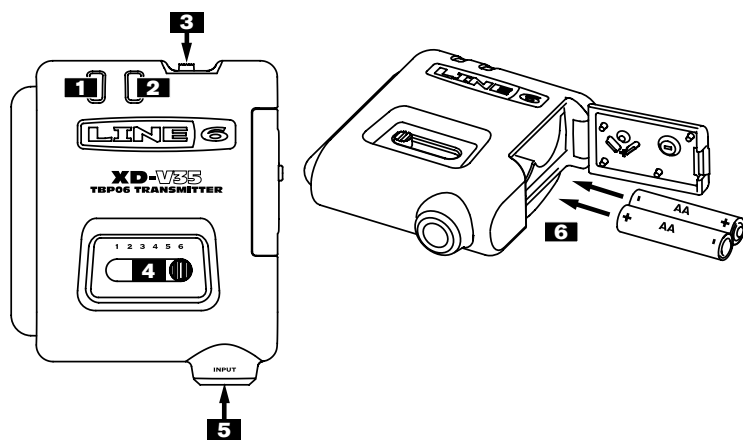
XD-V35 デジタル・ワイヤレス・クイック・セットアップ レシーバー



1. 6ポジション・チャンネル・セレクト・ノブ
2. バッテリー・レベル・インジケーター LED - 緑に点灯します。全部点滅しているとトランスミッターのバッテリーはフルであることを示します。残り1時間でLEDが赤く点灯し、残り時間が40分を切ると赤く点滅します。
3. トランスミッター・シグナル・レベル・インジケーター LED - トランスミッターからの信号の強さ/質を緑で表示します。トランスミッターを切っている場合、またそのチャンネルに干渉がある場合は赤く点灯します。
4. オーディオ LED - オーディオ信号が存在する場合、緑で表示されます。
5. パワー LED - 電源が入っていると青く表示されます。
6. アンバランス1/4 インチ・オーディオ・アウトプット・コネクター
7. バランス XLR オーディオ・アウトプット
8. 9VDC パワー・インプット・コネクター - パワー・サプライ・ケーブルをレシーバーおよびACに接続するとレシーバーの電源が入ります。回転式のチャンネル・セレクト・ノブを使いたいチャンネルに合わせます(トランスミッターと同じチャンネルにする必要があります)。ミキサーなどのオーディオ機器にオーディオ・ケーブルで接続します。以上でレシーバーが使用可能になりました。

注:レシーバーのアンテナは内蔵されています。

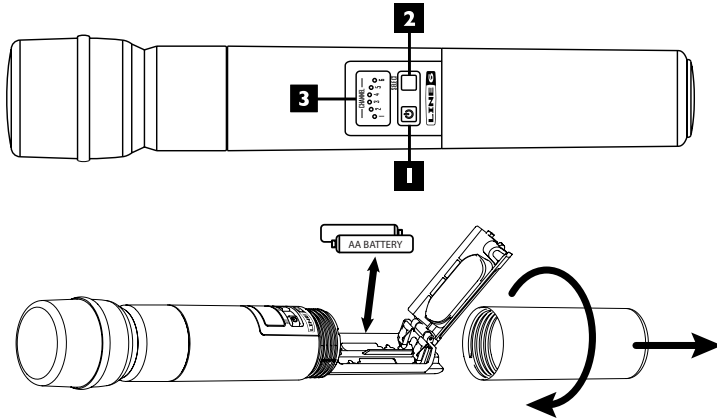
ボディパック・トランスミッター



1. **オーディオLED** – オーディオ信号が存在する場合、緑で表示されます。
2. **バッテリー・レベルLED** – バッテリーの状態が良好な場合は青く点灯、低い場合は赤く点灯、残り時間40分を切ると赤く点滅します。
3. **オン/オフ・スライド・スイッチ**
4. **チャンネル・セレクト・スライド・スイッチ**
5. **1/4インチTRSインプット・コネクター**
6. **バッテリー・ドア・スライド・スイッチおよびヒンジ・ドア**。ボディパックの側面のバッテリー・ドアを開け、単三電池を2本入れてください。**オン/オフ**・スイッチをスライドさせて電源を入れます。**チャンネル・セレクト**・ボタンをスライドさせ選択してください。レシーバーと同じチャンネルを選択してください。以上でトランスミッターが使用可能になりました。

注:ボディパック・トランスミッターには、ベルトやその他の衣類に取り付けるためのベルト・クリップを備えています。

ハンドヘルド・トランスミッター



1. **POWER ボタン** - 電源を入れるには短く押し、切る場合は2秒間押し続けます。
2. **CHANNELセレクト・ボタン** - チャンネル1から6
3. **チャンネルLED** - 現在使用中の送信チャンネルを青く表示します。電池残量が少なくなるとチャンネル6のLEDが赤く点灯し、残り時間40分を切ると赤く点滅します。トランスミッターの底面を外し、単三電池を2本入れてください。パワーボタンで電源を入れます。LEDの位置を見ながら**チャンネル・セレクト・ボタン**を押してチャンネルを設定します。レーザーと同じチャンネルを選択してください。以上でトランスミッターが使用可能になりました。

XD-V35 レーザーのセットアップ

レーザーのセットアップは非常に簡単です。このセクションには有用な追加情報が記載されています。

- ・ スタンドアロンで使用する場合、トランスミッターから見通しの良い場所にレーザーを設置してください。そうすることによって到達範囲を最大化することができます。
- ・ 付属のDC-1Gパワーサプライを背面の9VDC200mAコネクタに接続してください（ケーブルが外れないよう、ケーブルで輪を作って、コネクタの左にあるケーブルホルダーに押し込んでください）。パワーサプライは、50または60Hzの90～240ボルトACソケットに接続してください。
- ・ レーザーがオンの場合、フロント・パネルの**POWER LED**が青く点灯します。
- ・ **CHANNEL SELECT**ノブをチャンネル1から6のいずれかに合うように回してください。レーザーと、対応するトランスミッターのチャンネルは必ず同じにします。複数のレーザーを使用する場合、各々を違うチャンネルに設定してください。
- ・ 対応するトランスミッターの電源が入っている場合、**TRANS STATUS**ウィンドウの右側にあるRF LEDが3つ全て、または下の1つか2つが緑に点灯します。点灯される数はトランスミッターとレーザーの距離によって異なります。
- ・ トランスミッターのバッテリーの状態によって**TRANS STATUS**ウィンドウの左側にあるバッテリー LEDが3つ全て、または下の1つか2つが緑に点灯します。バッテリー・レベルが低い場合下のLEDは赤く点灯し、使用時間が40分を切ると赤く点滅します。
- ・ マイクに向かって話したり歌ったりすると緑の**AUDIO LED**が点灯します。
- ・ リア・パネルの**バランス XLR オーディオ・アウトプット**または**アンバランス1/4インチ・オーディオ・アウトプット**を使用してオーディオ・システムに接続してください。XDV35レーザーでTRSコネクタは使用しない

ください。TRSコネクターのリングの部分はファームウェア・アップデートで使用するため、オーディオ・アウトプットにコンピューターによるノイズが発生する可能性があります。

注: 関連しているトランスミッターの電源がオフで、Line 6トランスミッター以外から発生している中程度から強い干渉が検知された場合、**TRANS STATUS**の右側にあるRF LEDが赤く点灯します。干渉が高くなるに従い、赤く点灯するLEDの数が増えていきます。高い干渉がある状態での使用はレンジの減少につながります。レーザーを干渉の元(例えばWiFiモデムやWiFiトランスミッター付きのコンピューターなど)から離して設置するか、干渉がない別のチャンネルを選択してください。

THH06 ハンドヘルド・トランスミッターのセットアップ

- THH06トランスミッターの下部を反時計回りにまわして外してください。親指の爪で軽くバッテリーカバーを引き、後ろに引っ張って開けてください。カバーはトランスミッターの底にヒンジでつながっています。
- バッテリー・コンパートメントに記載されている極性に注意しながら単三電池を2本入れてください。アルカリ電池または2400 ~ 2800mAhの充電式NiMH電池をお使いください。バッテリーカバーを閉じてトランスミッターの下部を元に戻してください。
- **CHANNEL**ディスプレイの下にある左側のボタンを少しの間押し続けると電源が入ります。現在使用中の送信チャンネルの下に小さい青いLEDが点灯します。
- 右の**SELECT**ボタンを押して次のチャンネルを選択してください。数字の上の青いLEDが点灯します。ボタンを押すたびに次のチャンネルに移動します。チャンネルは選択と同時に、すぐにアクティブになります。トランスミッターのボタンは間違えて押してしまわないように埋め込んであります。カチッと音が聞こえるまで強めに押ししてください。
- トランスミッターのチャンネル番号がレーザーと同じになるとレーザーの**TRANS STATUS** LEDは緑に点灯します。マイクに向かって話すとレーザーの**AUDIO** LEDが緑に点灯します。

注: トランスミッターのバッテリー・レベルが低いとディスプレイの数字の6の上のLEDが赤く点灯し、残り時間40分を切ると赤く点滅します。Line 6トランスミッターのバッテリー残量メーターはアルカリ電池で測定されているため、NiMH充電式電池を使用すると残量の測定はアルカリ電池ほど正確ではない場合があります。目安として、赤いLEDが点灯した場合は新しい電池を入れるといいでしょう。マンガ電池の使用は推奨されていません。

TBP06 ベルトパック・トランスミッターのセットアップ

- 親指の爪でトランスミッターの右側にあるバッテリー・ドアのラッチをスライドさせます。
- ヒンジ・ドアを開き、バッテリー・コンパートメントの上部のプレートに記載されている極性に注意しながら単三電池を2本入れてください。アルカリ電池または2400 ~ 2800mAhの充電式NiMH電池をお使いください。バッテリー・カバーを閉め、親指の爪でラッチをスライドさせてロックしてください。
- トランスミッターの上部にあるスイッチをONにスライドすると、バッテリーを示す**Batt** LEDが青く点灯します。

注: トランスミッターのバッテリー残量が低い場合には**Batt** LEDが赤く点灯し、残り時間40分を切ると赤く点滅します。

- トランスミッターの正面にはチャンネルを1から6まで選択できる金属性の**チャンネル・セレクト**・スライド・スイッチがあります。希望のチャンネル番号に金属性のボタンをスライドさせてください。戻り止めが付いているので正しい位置で止まります。チャンネルは選択と同時に即座にアクティブになります。
- トランスミッター下部の1/4TRSジャックにラベリア・マイクを接続してください。マイクに向かって話すと**AUDIO** LEDが点灯します。

- ・ トランスミッターのチャンネル番号がレシーバーと同じになるとレシーバーの**TRANS STATUS** LEDは緑に点灯します。マイクに向かって話すレシーバーの**AUDIO** LEDが緑に点灯します。

XD-V35 レシーバーの接続

レシーバーにはバランスXLRおよびアンバランス（標準）コネクタが用意されています。ミキサーやパワー・ミキサーに接続するには、レシーバーのアウトプットからマイク・ケーブルでミキサーのマイク・レベルのインプットに（普段マイクをワイヤードで使用するのと同じように）接続してください。XD-V35レシーバーのアウトプットはトランスミッター側のマイクおよびその他のスタンダードのマイクのレベルとほぼ同一です。

アンプやエフェクト等 1/4 インチコネクタをその他の機器に接続するには、1/4 インチのシールドをお使いください。このアウトプットもマイク・レベルです。

マイク使用のコツ

ユーザーの口元とマイクの距離や位置関係を一定に保つようにしてください。演劇の舞台などでは、よくマイクを髪の毛の生えざわ（頭の横または耳の上）につけています。襟や肩にマイクをつけると、頭の回転によって音量の差が生じてしまいます。こうした症状を最小限に抑えるために色々試してみてください。マイクを胸の中心につけると音量の差は改善しますが、距離がかなりあるために声のダイレクトなエネルギーが遮られてしまい、中域が強い「チェスト」音質になってしまいます。

V35ベルトパック・トランスミッターはロールオフ・フィルターが内蔵されています。

動作範囲のウォーク・テスト

新しい場所にワイヤレス・システムを設置する場合、まず希望の位置に設置した後、オーディオ・システムおよびトランスミッターを使える状態にし、動作範囲を歩いてみてください。話してみて、レシーバーの位置に対して信号のドロップアウトなどの問題がないかを確認します。

可能であれば、レシーバーの位置を変更してレンジを強化する、トランスミッターとの間に障害物がない（見通しが良い）状態にして信号が低い場所をなくす、などを実行するといいでしょう。

付録

トラブルシューティング

問題	解決法
オーディオが来ない	トランスミッターがオフまたは電池切れ 電池の極性が逆 トランスミッターとレシーバーが別のチャンネルに設定 レシーバーがオフまたは接続されていない
トランスミッターの電源を切れない チャンネルを変えられない	トランスミッターがロックされている (THH06ハンドヘルドのみ)
信号が来ない ドロップアウト レンジが狭い	トランスミッターとレシーバーの距離が遠すぎる 他の送信またはRFデバイスがレシーバーの近くにある レシーバーとトランスミッターの間が見通しが悪い チャンネルによって干渉がある—チャンネルを変える 他のLine 6トランスミッターがオンで同じチャンネルを使用している

THH06およびTBP06トランスミッターをXD-V30互換性モードに設定する

XD-V35システムは、新しいデュアル・フリーケンシー RF2モードに設定された状態で工場出荷されています。XD-V35バージョンのトランスミッターを旧世代のXD-V30レシーバー(RF1モード)で使用したい場合、トランスミッターをRF2からRF1モードに変更する必要があります。この方法はハンドヘルドとベルトパックでは異なります。

THH06ハンドヘルド・トランスミッター

- トランスミッターをオフにします。
- SELECTボタンを押し続けます。
- SELECTボタンを押しながらONボタンを押し、そのまま両方のボタンを押し続けてください。
- RF1モードに入った事を表示するためにチャンネル1の上の青いLEDが3回点滅します。
- RF2モードに戻るには上記の手順を繰り返してください。RF2モードに入った事を表示するためにチャンネル2の上のLEDが3回点滅します。

TBP06ベルトパック・トランスミッター

- トランスミッターがオフの状態チャンネル・セレクト・スライド・スイッチをチャンネル6に設定します。
- トランスミッターをオンにします。
- ただちにチャンネル・セレクト・スライド・スイッチを一番左のチャンネル1に設定します。
- チャンネル・セレクト・スライド・スイッチを素早く一番右のチャンネル6に設定します。
- チャンネル・セレクト・スライド・スイッチを素早く一番左のチャンネル1に設定します。
- トランスミッターをオンにしてから3秒以内に上記の手順を行ってください。
- トランスミッターが4フリーケンシー伝送モードに入ったことを示すため、青いLEDが1回点滅します。RF2モードに戻るには上記の手順を繰り返してください。RF2モードに入ったことを示すため、青いLEDが2回点滅します。

XD-V35 デジタル・ワイヤレス・システムの詳細

システム

周波数	2.4GHz ISMバンド
互換性のあるチャンネル	6
デジタル・バッファ付き スペシャル・ダイバシティ	採用
周波数ダイバシティ	採用 (各チャンネルにつき2フリケンシー)
コンパクター・フリー・デザイン	採用
周波数レスポンス THD%	10Hz (-0.5dB) - 20kHz (-2.5dB) 0.03% typical
システム・レイテンシー	<2.9ms (オーディオ・インプットからアウトプットまで)
動作温度	1 ~ 50°C
レンジ	83メートルまで 実際のレンジは見通しの良さや、近隣のRF干渉ソースなどに左右されます

レシーバー

RF信号の強さインジケータ	3セグメントLED
バッテリー・レベル・インジケータ	3セグメントLED
オーディオ・インジケータLED (オーディオの有無を示す)	採用
スケルチ/パッド調整	不要
レシーバー・アンテナ	内蔵
レシーバー・フォーマット	テーブルトップ
レシーバー・パワー条件	9Vdc 200mA
アウトプット・インピーダンス	XLR: 150Ohm バランス バランス / 1/4 インチ: 1kOhm アンバランス 95dBm
センシティブリティ・イメージ・リジエクション	56dB

トランスミッター

トランスミッター RF アウトプット・パワー	10mW
電池持続時間	8時間
電池	2× 単三アルカリ電池
バッテリー・レベル・ディスプレイ	ロー・バッテリー LED
ダイナミック・レンジ	
THH06 ハンドヘルド	>115dB
TBP06 ベルトバック	>118dB
TBP06 最大オーディオ・インプット・レベル	6.5Vpp
TBP06 ベルトバック・インプット・インピーダンス	1.3 MOhms
TBP06 ベルトバック供給バイアス・ボルテージ	5VDC

TBP06 ベルトバックから1/4 インチ TRS コネクタへのピンアウト

- Tip = シグナル
- Ring = バイアス・ボルテージ、5VDC
- Sleeve = グラウンド